

V. 運営

22. 定款委員会

委員長 奥 山 宏 臣

本年度は以下の4項目に係る定款および同施行細則の変更の諮問を受けて、該当する定款、入会規則（定款施行細則第1号）、会費規則（定款施行細則第2号）、役員・代議員等選任規則（定款施行細則第3号）、および復会・休会規則（定款施行細則第10号）のそれぞれの変更案（29頁～51頁）を作成し、理事会で決議されたので、社員総会に上程する。

1) 代議員定数の増員

→定数を50名増員し、最大400名以内とする。

2) 準会員制度の創設

→医師／医学士以外を対象として、次の条件で準会員制度を創設する。

- ・年会費は正会員の半額（5,000円）とするが、入会手数料は同一（2,000円）とする。
- ・医師／医学士は準会員になれないものとする。
- ・代議員選挙の選挙権／被選挙権は付与しないものとする。
- ・上記以外は原則として正会員と同等の権利を付与する。

3) 会費未納による会員資格喪失後の復会申立期間の延長

→3年間の会費未納により会員資格を喪失するものの、喪失後1年以内であれば、復会を申し立てることができるが、この復会申立期間を3年以内に延長する。

4) 代表理事（理事長／副理事長）の任期の変更

→理事長／副理事長の任期は、選任された時に始まり、次期理事長／次期副理事長が選任された時に終わることになっているが、理事の任期の始期／終期と合わせるものとする。

23. 財務委員会

委員長 武 富 紹 信

1. 令和4年度決算について

令和4年度財務諸表を作成し、独立監査人であるEY新日本有限責任監査法人と本学会監事の監査を経て理事会に答申したところ、答申どおりに決議されたので、定時社員総会に上程する（資料別添）。

2. 令和5年度予算について

令和5年度予算について、委員会で審議し、理事会に答申したところ、答申どおりに決議されたので、令和5年2月1日からその予算に沿って業務を執行している（資料別添）。

3. マイナンバーについて

本学会から講演料や執筆料などの謝金を支弁した場合には、税務署に当該の支払調書を提出することになり、その支払調書には対象者のマイナンバーを記入することが義務付けられている。税務署でも支払調書のマイナンバーのチェックが厳格化している旨が、顧問税理士から指導されたため、改めて収集を徹底することとした。

4. 適格請求書等保存方式（インボイス制度）について

令和5（2023）年10月からインボイス制度が導入されるが、本学会は既に「適格請求書発行事業者」として登録済みである（→国税庁のホームページで公表）。

なお、この制度の導入にあたって、本学会の消費税の納税額そのものにはほとんど影響は生じない見込みだが、謝金などの報酬支払時の取扱いについてはルール化が必要となるので、以下の方針を採ることとした。

- ・支払先（相手）の「適格請求書発行事業者」の有無は本学会からは確認せず、相手からインボイスの提出があった場合のみ控除の対象とする。
 - ・インボイスの登録がある場合のみ外税方式とし、報酬の本体価格は同一として、手取り金額を変更する（→インボイスの登録がない場合は、これまでどおりの内税方式として、手取り金額の変更もない）。
- また、学術集会の会員以外の参加費も消費税の課税対象となるため、外税方式（本体価格1万5,000円/消費税1,500円）に変更し、領収書や請求書などの様式もインボイス制度に対応するように見直すこととした。

24. 情報・広報委員会

委員長 田 尻 達 郎

1. 会員向けオンラインサービスについて

現在、会員向けオンラインサービスの登録者数は全会員40,662名のうち35,662名である。

基盤のシステムおよび会員向けオンラインサービスを全面的に改修するにあたり、「デジタル化推進基金」を活用して、EYストラテジー・アンド・コンサルティング社のコンサルテーションを受けながら、密に連携して慎重に進めている。これまでに、システムの基盤となるプラットフォームの選定にかかるRFI（情報提供依頼書）の作成・提示と、開発委託業者の選定に当たり現行のシステムならびに各種業務の分析を行い、要望点などを確認した上で、RFP（提案依頼書）を作成して、開発委託業者の公募を行った。

結果として、プラットフォームベンダーはAmazon Web Service社、開発委託業者はテクノプレイブ社（東京都千代田区）をそれぞれ選定した。この後は、令和7（2025）年2月のリリースを目標として開発を行う予定である。

なお、今後の実際のリプレイス作業にあたって費用が高騰したり、納期が遅滞したりすることなどがないように、引き続きコンサルテーションを依頼して、適切な業務管理を行ってもらったこととした。

2. SNSの利活用について

本学会も米国の学会などに倣って情報発信の頻度を上げるため、若手（U-40）の委員で「SNS活用のためのWG」を立ち上げてもらい、山本健人委員（北野病院）にリーダーを務めてもらった。そして、本学会がSNSなどのツールを有効活用して情報発信を活発に行えるように、リスク回避やルール整備などに

いて検討を行っている。

なお、令和5（2023）年6月を目途として本格的にSNS運用を始動する予定である。

3. 第31回日本医学会総会のパネル展示について

本学会の120年記念誌の編集を担当した業者に依頼して、比較的スタンダードな内容で展示パネルを制作し、提出済みである。

25. NCD 連絡委員会

委員長 湊 谷 謙 司

- 1) NCD から「NCD 自施設データ利用申請」における外科領域のデータの利用申請について照会を受けた場合は、適宜「可否」を判断して、回答を行っている。
- 2) 例年どおり、NCD から2021年のデータ集計結果（Annual Report）が届いたので、ホームページで公開した。
- 3) NCD の運営委員会で脳死ドナー手術の登録の方針が決定され、日本臓器移植ネットワークに報告された。

1) 一般社団法人 National Clinical Database (NCD)

代表理事 瀬 戸 泰 之

National Clinical Database（以下NCD）は、2010年に設立され、2011年1月の症例から登録を開始し、事業を開始して11年が経過した。2015年度より、登録を行っている施設会員から会費の支払いをお願いしている。なお、2018年度から未納期間が合計2年間（連続・不連続問わず）の施設は、「NCD施設会員資格」を喪失し、外科専門医制度において基幹施設又は連携施設になれないほか、個人医師による専門医申請の際に当該施設で実施された全症例（2011年～現在まで）のデータが利用することができなくなる。

外科学会関連で登録された症例数は、2023年3月1日時点で下記のとおりである。

2011年	1,172,265件
2012年	1,278,940件
2013年	1,567,127件
2014年	1,626,949件
2015年	1,718,399件
2016年	1,785,495件
2017年	1,829,305件
2018年	1,831,316件
2019年	1,860,791件
2020年	1,783,629件
2021年	1,814,874件

累計 18,269,090件

また、過去に完了承認済みを1件以上登録した施設診療科数は、5,052施設・9,004診療科であり、有効ユーザー数は48,265人である。

なお、2022年分のデータ登録を2023年4月5日で締め切る予定である。

2022年度事業報告書、2023年事業計画書及び進行中の公的研究費案件一覧、データ利用研究の一覧（各領域ごと）については、次頁以降を参照のこと。

一般社団法人 National Clinical Database
2022 年度事業報告書

National Clinical Database (以下 **NCD**) は臨床現場の医療情報を体系的に把握し、医療の質の向上に資する分析を行う。その結果を以て市民に最善の医療を提供し、適正な医療水準を維持することを目的とする。2022 年度は、以下の事業を実施した。

(1) 医療情報を集積したデータベースの維持管理及び提供について

- 各領域のデータ入力仕様の改訂要望を加盟学会より受け付け、正確なデータ収集を図り、入力プラットフォームの構築を進めた。
- 症例登録において、追跡調査の補助機能を継続的に開発し、フォローアップ情報の入力向上と状況把握を支援した。
- **JCVSD-A**、**JCVSD-C**、消化器外科、乳腺外科、呼吸器外科、**J-PCI**、小児外科等の領域で、データの集計・分析結果を施設診療科が確認できるフィードバック関連業務を行った。
- **DPC**・レセプト情報の集積システムの管理およびデータ利活用の研究を継続した。
- **NCD** において、がん登録データベース（乳癌・肺癌・肝癌・胃癌・食道癌・腎癌・前立腺癌・膀胱癌・胆道癌・精巣癌等の領域）の維持管理及び開発を進めた。
- 利用者の入力負荷軽減のため、院内情報システムに症例アップロード用フォーマットの活用を促進した。

(2) データベースを活用した医療水準の評価及び臨床研究の支援について

- 各学術団体によるデータ利用研究や学術調査、各学会のアンニュアルレポート作成を支援した。
- データの質の検証業務にリモート型を含め、各領域でのデータ検証を支援した。
- 自施設データダウンロード機能を継続的に提供し、医療品質の評価等に寄与した。
- 各領域の共同研究開発において、**NCD** データを用いた分析業務等を支援した。

(3) データベースの運用による関連団体との業務連携について

- 専門医制度との連携において、各種申請システム等の開発及び維持管理を継続的に行った。
- 産学官連携において、医療機器等に関する製造販売後調査等を支援した。
- 各領域の学術集会において、**NCD** のデータ収集状況や利活用について周知した。

(4) 法人の目的を達成するために必要な関連事業ならびに業務について

- **NCD** の運用面を周知するため、データマネージャー等を対象にしたセミナーを開催した。
- 産学連携を積極的に推進し、データの利活用により、**NCD** の財政基盤の強化に貢献する施策を検討した。
- 個人情報の保護、知的財産の管理を行い、業務上のリスクアセスメントを適宜実施した。
- 機密性・完全性・可用性の向上のため、サーバーや作業端末の運用を見直し、クラウド化の対応を進めた。
- ソフトウェアの品質向上に努め、システム保守及び管理業務の安定化を図った。
- 適切なデータ管理のもとで、学術団体と協働した研究実施体制の整備支援を行った。

以上

一般社団法人 National Clinical Database
2023 年度事業計画書

National Clinical Database（以下 **NCD**）は臨床現場の医療情報を体系的に把握し、医療の質の向上に資する分析を行う。その結果をもって市民に最善の医療を提供し、適正な医療水準を維持することを目的とする。2023 年度は、以下の事業を実施する。

(1) 医療情報を集積したデータベースの維持管理及び提供について

- 医療技術等の進歩を踏まえ、より適切で更なる利活用が可能となるようなデータの収集を目指し、各領域のデータ入力仕様の改修要望を学会から受け付け、入力プラットフォームの構築を進める。
- **JCVSD-A**、**JCVSD-C**、消化器外科、呼吸器外科、小児外科、乳腺外科、**J-PCI** 等の領域で、**NCD** データに基づく社会的関心が高い手術のリスク情報等を施設診療科が確認できるフィードバック関連機能の開発等を通し、各学会による医療の質の改善活動を継続的に支援する。
- **DPC**・レセプト情報の集積システムの管理及び運用を継続し、**DPC** 情報の更なる利活用を目指し、研究デザイン等を学会と検討する。
- **NCD** において、がん登録データベース（乳癌・膵癌・肝癌・胃癌・食道癌・腎癌・前立腺癌・膀胱癌・胆道癌・精巣癌等の領域）の維持管理及び開発を進める。
- 症例登録において、追跡調査の補助機能を継続的に開発し、フォローアップ情報の入力向上と状況把握を支援する。
- 利用者の入力負荷軽減のため、院内情報システムに症例アップロード用フォーマットの活用を促進する。

(2) データベースを活用した医療水準の評価及び臨床研究の支援について

- 各学術団体による学術調査やアニュアルレポートを支援し、対応の仕組みづくりを検討する。
- データの質の検証業務にリモート型を含め、各領域でのデータ検証を支援する。
- 自施設データダウンロード機能を継続的に更新し、医療品質の評価等に寄与する。
- 各領域との共同研究開発において、**NCD** データを用いた分析・評価を行う等、研究を支援する。

(3) データベースの運用による関連団体との業務連携について

- 専門医制度との連携において、各種申請システム等の開発及び維持管理を継続して行う。
- 産学官連携において、医療機器等に関する製造販売後調査等を支援する。
- 各領域の学術集会において、**NCD** のデータ収集状況や利活用の方法について周知する。

(4) 法人の目的を達成するために必要な関連事業ならびに業務について

- 症例登録に当たっての専門的な知見の習得や入力の効率化を図るため、データマネージャー等を対象にしたセミナーを開催する。
- 産学連携を積極的に推進し、データの利活用により、**NCD** の財政基盤の強化に貢献する施策を検討する。

- 個人情報の適正な取扱い及び知的財産の管理を行い、業務上のリスクアセスメントを適宜実施する。
- 機密性・完全性・可用性の向上のため、サーバーや作業端末の運用を見直し、クラウド化の対応を進める。また、職員及び関係者の情報セキュリティに関する教育を継続して行う。
- ソフトウェアの品質向上に努め、システム保守及び管理業務の安定化を図る。適切なデータ管理のもとで、学術団体と協働した研究実施体制の整備支援を行う。

以上

2022年～2023年 NCD公的研究費案件一覧

NCD事務局進捗確認(2023年2月24日)

(1)AMED 肝炎等克服実用化研究事業(肝炎等克服緊急対策研究事業)

「ウイルス性肝疾患を含む代謝関連肝がん発生の病態解明に関する研究」のもと...

委託者	監修	内容	委託期間	概算金額	領域
東京大学	小池和彦先生 (立石良介先生)	「組織学的に診断されたアルコール性でない脂肪肝炎(non-ASH steatohepatitis)のregistry研究」に関する事務業務	・2022年4月1日～2023年3月31日	185万円	・脂肪肝炎・消化器内科

(2)厚生省肝炎対策予算

委託者	監修	内容	委託期間	概算金額	領域
東京大学	小池和彦先生	「肝がん・重度肝硬変の治療に係るガイドラインの作成等に資する研究」 →①レジストリーの改修、②事務業務を継続予定	①2022年4月28日～11月4日 ②2022年3月23日～2023年3月31日予定	①190万円 ②368万円	・肝癌

(3)厚生労働科学研究費補助金(がん対策推進総合研究事業)など...

委託者	監修	内容	委託期間	概算金額	領域
国立国際医療研究センター 日本肝癌研究会	国土典宏先生	「肝癌薬物療法のリアルワールドデータを活用したオールジャパン研究」に関する事務運用」	・2022年4月1日～2023年3月31日	495万円	・肝癌、AI研究開発

(4)内閣府 戦略的イノベーション創造プログラム(SIP)

委託者	監修	内容	委託期間	概算金額	領域
国立国際医療研究センター 日本胃癌学会	国土典宏先生	「全国胃癌登録を利用した術後化学療法最適化に関する研究のシステム運用」	①2022年1月～3月迄 ②2022年4月～6月迄	①86万円 ②86万円	・胃癌、AI研究開発

(5)厚生労働科学研究費補助金(がん対策推進総合研究事業)

委託者	監修	内容	委託期間	概算金額(税込み)	領域
福島県立医科大学	丸橋繁先生	「高齢者消化器がん手術における診療指針策定と、指針普及・人材育成を旨とした協働型意思決定支援システムおよび病院評価プログラムの開発」 →システム設計・開発支援業務、統計解析業務	・2022年12月12日～2023年3月31日	348万円	・消化器外科

(6)厚生労働省がん政策研究事業

委託者	監修	内容	委託期間	概算金額	領域
名古屋大学	小寺泰弘先生	「本邦における十二指腸癌にチアする切除術式、リンパ節郭清範囲、周術期化学療法の実態と解剖学的部位別のリンパ節転移率に関する観察研究に伴うシステム運用」	①2022年9月28日～10月25日(システム改修費) ②2022年10月24日～2023年3月31日(運用費)	①27万円 ②65万円	・消化器外科

(7)厚生労働行政推進調査事業費補助金

委託者	監修	内容	委託期間	概算金額	領域
慶應義塾大学(医学部循環器内科)	香坂俊先生	「弁膜症、狭心症等の循環器病診療の標準化・適正化に資する研究」業務委託	①2022年2月納品 ②2022年11月納品	①89万円 ②29万円	・CVIT

外科領域横断研究・日本外科学会主導研究

申請年度	申請団体	研究代表者	研究内容	投稿先・発表先	掲載媒体詳細・発表日
2021	日本外科学会	池田 徳彦	The impact of COVID-19 on surgical procedures in Japan: an analysis of data of the National Clinical Database	Surgery Today.	16 November 2021 DOI: 10.1007/s00595-021-02408-2
2018	日本外科学会	瀬戸 泰之	No association between hospital volume and short-term outcomes of some common surgeries: a retrospective cohort study based on a Japanese nationwide database	Surgery Today.	11 February 2022 DOI: 10.1007/s00595-022-02467-x

学会名:日本消化器外科学会

申請年度	申請団体	研究代表者	研究内容	投稿先・発表先	掲載媒体詳細・発表日
2013	日本消化器外科学会	後藤 満一	Comparison of National Operative Mortality in Gastroenterological Surgery Using Web-based Prospective Data Entry Systems	Medicine (Baltimore)	Published online 2015 Dec 11.
2013	日本消化器外科学会	今野 弘之	Association between the participation of board-certified surgeons in gastroenterological surgery and operative mortality after eight gastroenterological procedures.	Surgery Today	First Online: 29 September 2016
2013	日本食道学会	北川 雄光	Comparison of Short-Term Outcomes Between Open and Minimally Invasive Esophagectomy for Esophageal Cancer Using a Nationwide Database in Japan	Annals of Surgical Oncology	First Online: 21 February 2017
2013	日本肝胆膵外科学会	宮崎 勝	Validation of the board certification system for expert surgeons (hepato-biliary-pancreatic field) using the data of the National Clinical Database of Japan: part 1 - Hepatectomy of more than one segment	Journal Hepatobiliary Pancreat Sciences	First published: 17 March 2016
2013	日本肝胆膵外科学会	宮崎 勝	Validation of the board certification system for expert surgeons (hepato-biliary-pancreatic field) using the data of the National Clinical Database of Japan: part 2 - Pancreatoduodenectomy	Journal Hepatobiliary Pancreat Sciences	First published: 19 March 2016
2013	日本内視鏡外科学会	比企 匡樹	Higher incidence of pancreatic fistula in laparoscopic gastrectomy. Real-world evidence from a nationwide prospective cohort study.	Gastric Cancer	First Online: 08 September 2017
2013	日本内視鏡外科学会	比企 匡樹	Morbidity and mortality from a propensity score-matched, prospective cohort study of laparoscopic versus open total gastrectomy for gastric cancer: data from a nationwide web-based database	Surgical Endoscopy	First Online: 07 December 2017
2013	日本外科学会	瀬戸 泰之	Effects of body mass index (BMI) on surgical outcomes: a nationwide survey using a Japanese web-based database	Surgery Today	First Online: 12 August 2015
2014	日本消化器外科学会	太田 哲生	本邦の地域の医療需要を反映した専門医研修プログラムを作成する為の二次医療圏単位での医療の実態把握	日本消化器外科学会雑誌	J-STAGE公開日: 2016/11/22
2014	日本食道学会	岡部 寛	Impact of hospital volume on risk-adjusted mortality following oesophagectomy in Japan.	British Journal of Surgery	First published: 29 September 2016
2014	日本胃癌学会	吉田 和弘	Surgical outcomes of laparoscopic distal gastrectomy compared to open distal gastrectomy: A retrospective cohort study based on a nationwide registry database in Japan	Annals of gastroenterological surgery	First published: 22 December 2017
2014	日本胃癌学会	吉田 和弘	Introducing laparoscopic total gastrectomy for gastric cancer in general practice: a retrospective cohort study based on a nationwide registry database in Japan	Gastric Cancer	First Online: 09 February 2018
2014	日本肝胆膵外科学会	宮崎 勝	Comparison of laparoscopic major hepatectomy with propensity score matched open cases from the National Clinical Database in Japan	Journal of Hepato-Biliary-Pancreatic Sciences	First published: 29 September 2016
2014	日本膵臓学会	下瀬川 徹	Japan Pancreatic Cancer Registry of Japan Pancreas Society. Comparison between the conventional database and National Clinical Database (NCD)	Pancreatology	Available online 16 July 2016.
2014	日本腹部救急医学会	平田 公一	A comparison of the surgical mortality due to colorectal perforation at different hospitals with data from 10,990 cases in the Japanese National Clinical Database	Medicine	Publication Date: January 2017
2015	日本消化器外科学会	森 正樹	Validity and significance of 30-day mortality rate as a quality indicator for gastrointestinal cancer surgeries.	Annals of Gastroenterological Surgery	First published: 16 April 2018
2016	日本胃癌学会	馬場 秀夫	Effect of hospital and surgeon volume on postoperative outcomes after distal gastrectomy for gastric cancer based on data from 145,523 Japanese patients collected from a nationwide web-based data entry system.	Gastric Cancer	First Online: 09 October 2018
			Association of Surgeon and Hospital Volume with Postoperative Mortality after Total Gastrectomy for Gastric Cancer: Data from 71,307 Japanese Patients Collected from a Nationwide Web-based Data Entry System(胃全摘)	Gastric Cancer	Published: 09 October 2020
2016	日本内視鏡外科学会	比企 匡樹	Surgical risk and benefits of laparoscopic surgery for elderly patients with gastric cancer: A multicenter prospective cohort study	Gastric Cancer	First Online: 11 December 2018
2016	日本消化器外科学会	後藤 満一	"Real-time" risk models of postoperative morbidity and mortality for liver transplants	Annals of Gastroenterological Surgery	First published: 02 November 2018
—	日本消化器外科学会	金治 新悟	Initial verification of data from a clinical database of gastroenterological surgery in Japan	Surgery Today	First Online: 07 November 2018
2017	日本食道学会	馬場 秀夫	Can Minimally Invasive Esophagectomy Replace Open Esophagectomy for Esophageal Cancer? Latest Analysis of 24,233 Esophagectomies From the Japanese National Clinical Database	Annals of Surgery	Publication Date: January 31, 2019
—	日本消化器外科学会	竹内 裕也	A risk model for esophagectomy using data of 5354 patients included in a Japanese nationwide web-based database.	Annals of Surgery	Publication Date: August 2014
—	日本消化器外科学会	渡邊 雅之	Total gastrectomy risk model: data from 20,011 Japanese patients in a nationwide internet-based database.	Annals of Surgery	Publication Date: December 2014
—	日本消化器外科学会	栗田 信浩	Risk Model for Distal Gastrectomy When Treating Gastric Cancer on the Basis of Data From 33,917 Japanese Patients Collected Using a Nationwide Web-based Data Entry System.	Annals of Surgery	Publication Date: August 2015
—	日本消化器外科学会	小林 宏寿	Risk model for right hemicolectomy based on 19,070 Japanese patients in the National Clinical Database.	Journal of Gastroenterology	First Online: 27 July 2013
—	日本消化器外科学会	松原 長秀	Mortality after common rectal surgery in Japan: a study on low anterior resection from a newly established nationwide large-scale clinical database	Diseases of the Colon & Rectum	Publication Date: September 2014
—	日本消化器外科学会	見城 明	Risk stratification of 7,732 hepatectomy cases in 2011 from the National Clinical Database for Japan.	Journal of the American College of Surgeons	Published online: November 18, 2013
—	日本消化器外科学会	木村 理	A pancreticoduodenectomy risk model derived from 8575 cases from a national single-race population (Japanese) using a web-based data entry system: the 30-day and in-hospital mortality rates for pancreaticoduodenectomy.	Annals of Surgery	Publication Date: April 2014
—	日本消化器外科学会	中越 亨	Surgical risk model for acute diffuse peritonitis based on a Japanese nationwide database: an initial report on the surgical and 30-day mortality.	Surgery Today	First Online: 18 September 2014

申請年度	申請団体	研究代表者	研究内容	投稿先・発表先	掲載媒体詳細・発表日
—	日本消化器外科学会	後藤 満一	National Clinical Database feedback implementation for quality improvement of cancer treatment in Japan: from good to great through transparency.	Surgery Today	First Online: 24 March 2015
—	日本消化器外科学会	菊池 寛利	Development and external validation of preoperative risk models for operative morbidities after total gastrectomy using a Japanese web-based nationwide registry.	Gastric Cancer	First Online: 11 March 2017
—	日本消化器外科学会	岡崎 主税	Modeling preoperative risk factors for potentially lethal morbidities using a nationwide Japanese web-based database of patients undergoing distal gastrectomy for gastric cancer.	Gastric Cancer	First Online: 23 August 2016
—	日本消化器外科学会	吉田 卓弘	Risk assessment of morbidities after right hemicolectomy based on the National Clinical Database in Japan	Annals of Gastroenterological Surgery	First published: 16 April 2018
—	日本消化器外科学会	渡邊 聡明	Prediction model for complications after low anterior resection based on data from 33,411 Japanese patients included in the National Clinical Database.	Surgery	Published online: January 30, 2017
—	日本消化器外科学会	横尾 安樹	Models predicting the risks of six life-threatening morbidities and bile leakage in 14,970 hepatectomy patients registered in the National Clinical Database of Japan.	Medicine (Baltimore)	Published online 26 Dec 9
—	日本消化器外科学会	青木 修一	Risk factors of serious postoperative complications after pancreaticoduodenectomy and risk calculators for predicting postoperative complications: a nationwide study of 17,564 patients in Japan.	Journal of Hepato-Biliary-Pancreatic Sciences	First published: 14 February 2017
—	日本消化器外科学会	佐藤 善一郎	Risk Models of Operative Morbidities in 16,930 Critically Ill Surgical Patients Based on a Japanese Nationwide Database.	Medicine (Baltimore)	Publication Date: July 2015
2014	日本胃癌学会	芳賀 克夫	Development and Validation of Grade-Based Prediction Models for Postoperative Morbidity in Gastric Cancer Resection using a Japanese Web-based Nationwide Registry	Annals of Gastroenterological Surgery	First published: 20 June 2019
2014	日本消化器外科学会	竹末 芳生	Risk calculator for predicting postoperative pneumonia after gastroenterological surgery based on a national Japanese database	Annals of Gastroenterological Surgery	First published: 22 April 2019
2015	日本外科学会	土岐 祐一郎	Frequency and risk factors for venous thromboembolism after gastroenterological surgery based on the Japanese National Clinical Database (516,217 cases)	Annals of Gastroenterological Surgery	First published: 22 July 2019
2016	日本肝胆膵外科学会	窪田 敬一	Use of the National Clinical Database to evaluate the association between preoperative liver function and postoperative complications among patients undergoing hepatectomy	Journal of Hepato-Biliary-Pancreatic Sciences	First published: 18 June 2019
2017	日本食道学会	馬場 秀夫	Response to Comment on "Can Minimally Invasive Esophagectomy Replace Open Esophagectomy for Esophageal Cancer? Latest Analysis of 24,233 Esophagectomies From the Japanese National Clinical Database".	Annals of Surgery	Publication Date: December 2019
2018	日本食道学会	本山 信	Impact of certification status of the institute and surgeon on short-term outcomes after surgery for thoracic esophageal cancer: evaluation using data on 16,752 patients from the National Clinical Database in Japan	Esophagus	First Online: 03 October 2019
2018	日本胃癌学会	井ノ口 幹人	Feasibility of laparoscopic gastrectomy for patients with poor physical status: A retrospective cohort study based on a nationwide registry database in Japan	Gastric Cancer	First Online: 22 July 2019
2013	日本消化器外科学会	後藤 満一	Significance of the board-certified surgeon systems and clinical practice guideline adherence to surgical treatment of esophageal cancer in Japan: a questionnaire survey of departments registered in the National Clinical Database	Esophagus	Published: 12 April 2019
—	日本消化器外科学会	宇田川 晴司 (大倉 遊)	Development of a model predicting the risk of eight major postoperative complications after esophagectomy based on 10,826 cases in the Japan National Clinical Database	Journal of Surgical Oncology	Accepted 27 November 2019
2016	日本胆膵学会	岡崎 和一	Risk model for severe postoperative complications after total pancreatectomy based on a nationwide clinical database	British Journal of Surgery	First published: 31 January 2020
2017	日本肝胆膵外科学会	田邊 稔	Safe dissemination of laparoscopic liver resection in 27,146 cases between 2011 and 2017 from the National Clinical Database of Japan.	Annals of Surgery	2020 Mar 20(Epub ahead of print)
2017	日本肝胆膵外科学会	中村 雅史	Definition of the Objective Threshold of Pancreatoduodenectomy With Nationwide Data Systems	Journal of Hepato-Biliary-Pancreatic Sciences	First published: 26 December 2019
2013	日本消化器外科学会	後藤 満一	Impact of adherence to board-certified surgeon systems and clinical practice guidelines on colon cancer surgical outcomes in Japan: A questionnaire survey of the National Clinical Database	Annals of Gastroenterological Surgery	First published: 07 April 2020
2013	日本消化器外科学会	後藤 満一	Impact of board certification system and implementation of clinical practice guideline for pancreatic cancer on mortality of pancreaticoduodenectomy	Surgery Today	Published: 07 May 2020
2013	日本胃癌学会	内谷 彰	Preoperative risk factors for postoperative intra-abdominal infectious complication after gastrectomy for gastric cancer using a Japanese web-based nationwide database	Gastric Cancer	Published: 21 May 2020
2018	日本腹部救急医学会	星野 伸亮	Emergency surgery for gastrointestinal cancer: a nationwide study in Japan based on the National Clinical Database	Annals of Gastroenterological Surgery	First published: 21 June 2020
2019	日本内視鏡外科学会	松田 武	Clinical outcome of laparoscopic vs open right hemicolectomy for colon cancer: A propensity score matching analysis of the Japanese National Clinical Database	Annals of Gastroenterological Surgery	First published: 01 August 2020
2017	日本内視鏡外科学会	赤木 智徳	Clinical impact of Endoscopic Surgical Skill Qualification System (ESSQS) by JSES for laparoscopic distal gastrectomy and low anterior resection based on the NCD registry	Annals of Gastroenterological Surgery	First published: 31 August 2020
2017	日本消化器外科学会	丸橋 繁	Geriatric Risk Prediction Models for Major Gastroenterological Surgery using the National Clinical Database in Japan: A Multicenter Prospective Cohort Study	Annals of Surgery	October 15, 2020 – Volume Publish Ahead of Print
2018	日本肝胆膵外科学会	馬場 秀夫	Risk Factors for Bile Leakage: Latest Analysis of 10,102 Hepatectomies for Hepatocellular Carcinoma from the Japanese National Clinical Database	Journal of Hepato-Biliary-Pancreatic Sciences	First published: 08 September 2020
2019	日本腹部救急医学会	山田 岳史	Emergency surgery for gastrointestinal cancer: A nationwide study in Japan based on the National Clinical Database	Annals of Gastroenterological Surgery	First published: 21 June 2020
2015	日本内視鏡外科学会	長谷川 博俊	Safety and Feasibility of Laparoscopic Surgery for Elderly Rectal Cancer Patients in Japan: a nationwide study	BJS Open	2020/10/17 submitted 2021/1/20 accepted

申請年度	申請団体	研究代表者	研究内容	投稿先・発表先	掲載媒体詳細・発表日
2017	日本消化器外科学会	今野 弘之	Profiles of institutional departments affect operative outcomes of eight gastroenterological procedures	Annals of Gastroenterological Surgery	First published: 20 February 2021
2019	日本肝胆膵外科学会	花崎 和弘	Association of day of the week with mortality after elective right hemicolectomy for colon cancer: Case analysis from the National Clinical Database	Annals of Gastroenterological Surgery	First published: 15 January 2021
2019	日本食道学会	渡邊 雅之	Association between preoperative HbA1c levels and complications after esophagectomy: Analysis of 15 801 esophagectomies from the National Clinical Database in Japan	Annals of Surgery	2020/9/25 accepted
2018	日本腹部救急医学会	松岡 義	Antithrombotic drugs have a minimal effect on intraoperative blood loss during emergency surgery for generalized peritonitis: A nationwide retrospective cohort study in Japan	World Journal of Emergency Surgery	Published: 27 May 2021
2018	膵臓内視鏡外科学会	中村 雅史	Comparison of Outcomes Between Laparoscopic and Open Pancreatoduodenectomy Without Radical Lymphadenectomy: Results of Coarsened Exact Matching Analysis Using National Database Systems	Asian J Endosc Surg	First published: 16 May 2021
2019	日本消化器外科学会	竹内 裕也	Significance of the Glasgow Prognostic Score for Short-Term Surgical Outcomes: A Nationwide Survey Using a Japanese National Clinical Database	Annals of Gastroenterological Surgery	First Published: 21 March 2021
2013	日本消化器外科学会 Annual Report	今野 弘之	National Clinical Database(消化器外科領域) Annual Report 2011-2012	日本消化器外科学会雑誌	2013/12/1
2014	日本消化器外科学会 Annual Report	若林 剛	National Clinical Database(消化器外科領域) Annual Report 2014	日本消化器外科学会雑誌	2015/12/1
2015	日本消化器外科学会 Annual Report	掛地 吉弘	National Clinical Database(消化器外科領域) Annual Report 2015	日本消化器外科学会雑誌	2017/2/1
2016	日本消化器外科学会 Annual Report	掛地 吉弘	Surgical outcomes in gastroenterological surgery in Japan: Report of National Clinical database 2011-2016	Annals of Gastroenterological Surgery	First published:23 November 2017
2017	日本消化器外科学会 Annual Report	長谷川 寛	Surgical outcomes in gastroenterological surgery in Japan: Report of National Clinical database 2011-2017	Annals of Gastroenterological Surgery	First published: 20 May 2019
2018	日本消化器外科学会 Annual Report	掛地 吉弘	Surgical outcomes in gastroenterological surgery in Japan: Report of National Clinical database 2011-2018	Annals of Gastroenterological Surgery	First published:20 March 2020
2019	日本消化器外科学会 Annual Report	丸橋 繁	Surgical outcomes in gastroenterological surgery in Japan: Report of National Clinical database 2011-2019	Annals of Gastroenterological Surgery	accept:25-Mar-2021
2020	日本内視鏡外科学会	綱笠 祐介	Outcomes of robot-assisted versus conventional laparoscopic low anterior resection in patients with rectal cancer: propensity-matched analysis of the National Clinical Database in Japan	British Journal of Surgery	Published: 23 September 2021
2020	日本内視鏡外科学会	宇山 一郎	Safe implementation of robotic gastrectomy for gastric cancer under the requirements for universal health insurance coverage: a retrospective cohort study using a nationwide registry database in Japan	Gastric Cancer	First published: 12 October 2021
2015	日本外科学会	長谷川 潔	Association between age and short-term outcome of gastroenterological surgeries in older patients: An analysis using the National Clinical Database in Japan.	Langenbeck's Archives of Surgeryのmajor reviewで改訂中(2021/2/24)	Published: 11 August 2021
2019	日本食道学会	竹内 裕也	Impact of Reconstruction Route on Postoperative Morbidity After Esophagectomy: Analysis of Esophagectomies in the Japanese National Clinical Database	Annals of Gastroenterological Surgery	First published: 06 September 2021
2019	日本消化器外科学会	西口 幸雄	Survey regarding gastrointestinal stoma construction and closure in Japan	Annals of Gastroenterological Surgery	First published: 06 November 2021
2020	日本腹部救急医学会	星野 伸晃	Laparoscopic surgery for acute diffuse peritonitis due to gastrointestinal perforation: a nationwide epidemiologic study using the National Clinical Database	Annals of Gastroenterological Surgery	First published: 13 December 2021
2013	日本消化器外科学会	後藤 満一	Impact of board certification system and adherence to the clinical practice guidelines for liver cancer on post-hepatectomy risk-adjusted mortality rate in Japan: A questionnaire survey of departments registered with the National Clinical Database	Journal of Hepato-Biliary-Pancreatic Sciences	First published: 27 May 2021
2019	日本肝胆膵外科学会	花崎 和弘	Day of surgery and mortality after pancreatoduodenectomy: A retrospective analysis of 29 270 surgical cases of pancreatic head cancer from Japan	Journal of Hepato-Biliary-Pancreatic Sciences	First published: 08 September 2021
2018	日本肝胆膵外科学会	山本 雅一	Surgical outcomes of laparoscopic versus open repeat liver resection for liver cancers: A report from a nationwide surgical database in Japan	Journal of Hepato-Biliary-Pancreatic Sciences	First published: 20 April 2022
2018	日本内視鏡外科学会	小濱 和貴	Prevalence and safety of robotic surgery for gastrointestinal malignant tumors in Japan	Annals of Gastroenterological Surgery	First published: 17 May 2022
2018	日本消化器外科学会	吉田 和弘	Surgical Experience Disparity Between Male and Female Surgeons in Japan	JAMA Surgery	First published: July 27, 2022
2018	日本肝胆膵外科学会	山本 雅一	Surgical outcomes of laparoscopic versus open repeat liver resection for liver cancers: A report from a nationwide surgical database in Japan	Journal of Hepato-Biliary-Pancreatic Sciences	published: 20 April 2022
2018	日本内視鏡外科学会	小濱 和貴	Prevalence and safety of robotic surgery for gastrointestinal malignant tumors in Japan	Annals of Gastroenterological Surgery	published: 17 May 2022
2018	日本消化器外科学会	吉田 和弘	Surgical Experience Disparity Between Male and Female Surgeons in Japan	JAMA Surgery	published: July 27, 2022
2021	日本消化器外科学会	花崎 和弘	Effects of the COVID-19 pandemic on gastroenterological surgeries in 2020: A study using the National Clinical Database of Japan	Annals of Gastroenterological Surgery	published: 18 November 2022
2018	日本消化器外科学会	掛地 吉弘	Risk model for mortality associated with esophagectomy via a thoracic approach based on data from the Japanese National Clinical Database on malignant esophageal tumors	Surgery Today	Published: 27 July 2022
2018	日本消化器外科学会	坂井 義治	A comparison of short-term surgical outcomes of male and female gastrointestinal surgeons in Japan: retrospective cohort study	BMJ Journals Premier Collection	Published: 28 September 2022

申請年度	申請団体	研究代表者	研究内容	投稿先・発表先	掲載媒体詳細・発表日
2021	日本食道学会	飛邊 雅之	Influence of patient position in thoracoscopic esophagectomy on postoperative pneumonia: a comparative analysis from the National Clinical Database in Japan	Surgery Today	Published: 21 September 2022

学会名：日本心臓血管外科手術データベース機構

申請年度	申請団体	研究代表者	研究内容	投稿先・発表先	掲載媒体詳細・発表日
2014	日本心臓血管外科手術データベース機構	帆足 幸也	ダウン症候群に伴う先天性心疾患に対する外科治療成績	Circulation Journal The Society of Thoracic Surgeons (STS) 53rd Annual Meeting 2017	2017 Sep 12. doi: 10.1253/circ.j. CJ-17-0483. Jan. 2017; Houston, TX
2014	日本心臓血管外科手術データベース機構	植木 力	低左心機能患者におけるCPABとOn-pump CABGの比較検討	第45回日本心臓血管外科学会学術総会 American Association for Thoracic Surgery (AATS) 95th Annual Meeting 2015 The Journal of Thoracic and Cardiovascular Surgery	2015年2月(京都) Apr. 2015, Seattle, Washington 2016 Apr; 151(4): 1092-8.
2014	日本心臓血管外科手術データベース機構	園原 孝	大動脈弁温存基置換術の全国集計	第43回日本血管外科学会学術総会 第58回 関西胸部外科学会学術集会 The Journal of Thoracic and Cardiovascular Surgery	2015年5月(神奈川) 2015年6月(岡山) 2019 Feb 15. pii: S0022-5223(19)30357-5. doi: 10.1016/j.jtvs.2019.01.122
2014	日本心臓血管外科手術データベース機構	宮入 剛	大動脈ステントグラフト挿入後の大動脈解離症例の検討	第45回日本血管外科学会学術総会 The Annals of Thoracic Surgery	2016年5月(広島) 2018 May; 105(5): 1392-1396. doi:
2014	日本心臓血管外科手術データベース機構	園原 孝	非増殖弁手術における心房補助に対する外科的肺静脈隔離術の有効性	General Thoracic and Cardiovascular Surgery	2017 May. doi: 10.1007/s11748-017-0785-x.
2014	日本心臓血管外科手術データベース機構	大北 裕	胸部大動脈瘤手術における慢性閉塞性肺疾患の影響	European Journal of Cardio-Thoracic Surgery	2017 Apr 1; 51(4): 761-766.
2014	日本心臓血管外科手術データベース機構	夜久 均	開心術後の大動脈狭窄症に対する大動脈弁置換術の成績および手術リスク因子の検討	European Journal of Cardio-Thoracic Surgery	2017 Feb 1; 51(2): 347-353
2014	日本心臓血管外科手術データベース機構	植木 力	冠動脈インターベンション既往が冠動脈バイパス手術の周術期成績に与える影響の検討	第68回日本胸部外科学会定期学術集会 The Society of Thoracic Surgeons (STS) 52nd Annual Meeting The Annals of Thoracic Surgery	2015年10月(神戸) 2016 Phoenix, Arizona 2017 Jul; 104(1): 56-61
2014	日本心臓血管外科手術データベース機構	夜久 均	CP-FUMP CABGと On-FUMP CABGの術後早中期成績の比較	29th European Association for Cardio-Thoracic Surgery (EACTS) Annual Meeting General Thoracic and Cardiovascular Surgery	Oct. 2015; Amsterdam The Netherlands 2 November 2021
2014	日本心臓血管外科手術データベース機構	佐々木 啓明	各慢性腎不全病期におけるオフポンプ冠動脈バイパス術の有用性の検討	第46回日本心臓血管外科学会学術総会 The Journal of Thoracic and Cardiovascular Surgery	2016年2月(名古屋) 2018 Apr 12. pii: S0022-5223(18)30934-6
2015	日本心臓血管外科手術データベース機構	空田 裕章	医療機器の市販後における使用成績評価の質及び信頼性の確保のための要件等に関する研究(厚生労働科学研究委託業務)	32nd International Conference on Pharmacovigilance and Therapeutic Risk Management	Aug. 2016; Dublin, Ireland and Management
2015	日本心臓血管外科手術データベース機構	佐々木 啓明	心臓血管外科手術における出血量の予測因子について	Journal of Cardiothoracic and Vascular Anesthesia	2017 Oct 13. pii: S1053-0770(17)30802-9
2015	日本心臓血管外科手術データベース機構	坂東 興	Impact of Body Mass Index and Albumin on Morbidity and Mortality after Cardiac Surgery in Geriatric Patients	第30回日本冠疾患学会学術集会 American Heart Association (AHA) 2017 J Thorac Cardiovasc Surg	2016年12月(東京) Nov. 2017; Anaheim California 2019 Sep 28.
2015	日本心臓血管外科手術データベース機構	福田 幾夫	急性肺塞栓症に対する外科治療の日本の現状	Circulation Journal 第47回日本心臓血管外科学会学術総会	2018 Jun 27. doi: 10.1253/circ.j. CJ-18-0371. 2017年2月(東京)
2015	日本心臓血管外科手術データベース機構	北川哲也	成人先天性心疾患の外科治療に関する研究	第22回日本人先天性心疾患学会ジョイントシンポジウム 日本心臓血管外科学会	2020年1月(東京) 2020
2015	日本心臓血管外科手術データベース機構	杉本 一	単心室における房室弁置換術の遠隔期成績の検討	31st European Association for Cardio-Thoracic Surgery (EACTS) Annual Meeting Interactive Cardiovascular and Thoracic Surgery	Oct. 2017; Vienna, Austria 2018 Dec 1; 27(6): 895-900
2016	日本心臓血管外科手術データベース機構	菅庭 了	心室中隔欠損症に対して広く行われている外科的閉鎖術に際して、低体重の術後経過への影響を検討する	American Heart Association (AHA) 2018	Nov. 10, 2018
2016	日本心臓血管外科手術データベース機構	坂口 元一	心筋梗塞後心室中隔穿孔の周術期成績の検討	第47回日本心臓血管外科学会学術総会 Circ J.	2017年2月(東京) 2019 Sep 11. doi: 10.1253/circ.j. CJ-19-0563.
2016	日本心臓血管外科手術データベース機構	中野 清治	本邦における再開心術(人工弁置換術)	European Journal of Cardio-Thoracic Surgery 第72回日本胸部外科学会定期学術集会	European Journal of Cardio-Thoracic Surgery 00 (2020) 1-9 2019年11月
2016	日本心臓血管外科手術データベース機構	阿部 知伸	急性A型大動脈解離の手術成績、患者背景の経時的な推移	European Journal of Cardio-Thoracic Surgery	European Journal of Cardio-Thoracic Surgery, ez333
2016	日本心臓血管外科手術データベース機構	徳田 順之	本邦における大動脈弁手術における患者背景の推移と手術成績の解析	第71回日本胸部外科学会定期学術集会 Circulation Journal	2018年10月(東京) doi: 10.1253/circ.j. CJ-19-0574 2020 Volume 84 Issue 2 Pages 277-282
2016	日本心臓血管外科手術データベース機構	櫻岡 録	Surveillance of AF Surgery in Asia-Pacific Region	8th Asia Pacific Heart Rhythm Society Scientific Session 2016	Oct. 2016, Seoul
2016	日本心臓血管外科手術データベース機構	平松祐司	先天性心疾患術後の遷延性タンポナーデの発症に関連する因子の検討	第51回心臓血管外科学会 J Thorac Cardiovasc Surg open	2021年2月(京都) Vol.9 Number C 237-243

申請年度	申請団体	研究代表者	研究内容	投稿先・発表先	掲載媒体誌名・発表日
2017	日本心臓血管外科手術データベース機構	西 宏之	小開胸横膈弁手術の有用性および安全性の検討 ～本邦におけるリスクファクターの解析～	第70回日本胸外科学会総会演題登録	2017年10月(岡山)
				第71回日本胸外科学会総会演題登録	2018年10月(東京)
				[Which Patients Are Candidates for Minimally Invasive Mitral Valve Surgery? - Establishment of Risk Calculators Using National Clinical Database.]	Circ J. 2019 Jul 25;83(8):1674-1681. doi: 10.1253/circj.CJ-19-0175. Epub 2019 Jun 29
2017	日本心臓血管外科手術データベース機構	結木 力	オフポンプ冠動脈バイパス術における術中コンバージョンのリスク解析	[The effect of hospital and surgeon procedure volume on incidence of intraoperative conversion during off-pump coronary artery bypass grafting] American Association for Thoracic Surgery (AATS)	98th Annual Meeting Toronto, Canada 2019
				Seminars in Thoracic and Cardiovascular Surgery	11:64-68 © 2020
2017	日本心臓血管外科手術データベース機構	田畑 実	低リスク大動脈弁置換術の成績と施設間差の検討	[Impact of In-Hospital Transcatheter Aortic Valve Replacement Availability on Outcomes of Surgical Aortic Valve Replacement in Elderly Patients] American Association for Thoracic Surgery (AATS)	98th Annual Meeting Toronto, Canada 2019
				Circulation Journal	doi: 10.1253/circj.CJ-20-0032 2020 Volume 84 Issue 9 Pages 1599-1604
2017	日本心臓血管外科手術データベース機構	藤田 知之	急性心筋梗塞後の僧帽弁閉鎖不全症への治療検討	Gen Thorac Cardiovasc Surg	Gen Thorac Cardiovasc Surg - 2020 Jun 25. doi: 10.1007/s11748-020-01418-y
2017	日本心臓血管外科手術データベース機構	田畑 実	中等度及び高リスク大動脈弁置換術の成績と施設間差の検討	Circulation Journal	Circulation Journal. 2020 Aug 25. doi: 10.1253/circj.CJ-20-0032
				American Association for Thoracic Surgery (AATS)	98th Annual Meeting Toronto, Canada 2019
2017	日本心臓血管外科手術データベース機構	正井 雅史	本邦における透視大動脈弁狭窄症に対する大動脈弁置換術のsurgical AVRの成績	Circulation Journal	Circulation Journal. 2020 Jul 22. doi: 10.1253/circj.CJ-20-0042
2017	日本心臓血管外科手術データベース機構	藤田 知之	急性心筋梗塞後の僧帽弁閉鎖不全症への治療検討	Gen Thorac Cardiovasc Surg	Gen Thorac Cardiovasc Surg - 2020 Jun 25. doi: 10.1007/s11748-020-01418-y
2017	日本心臓血管外科手術データベース機構	—	中等度及び高リスク大動脈弁置換術の成績と施設間差の検討	[Impact of In-Hospital Transcatheter Aortic Valve Replacement Availability on Outcomes of Surgical Aortic Valve Replacement in Elderly Patients] American Association for Thoracic Surgery (AATS)	98th Annual Meeting Toronto, Canada 2019
				Circulation Journal	Circulation Journal. 2020 Jul 22. doi: 10.1253/circj.CJ-20-0042
2018	日本心臓血管外科手術データベース機構	福田 巖夫	慢性腎機能障害が弓部大動脈手術成績に与える影響についての検討	34th EACTS Annual Meeting	2020年10月
				European Journal of Cardio-Thoracic Surgery	1-8 doi:10.1093/ejcts/ezab252
2018	日本心臓血管外科手術データベース機構	中井 真尚	胸部心臓血管外科領域におけるSSI発生の現状とその影響	第32回日本外科感染症学会総会学術集会 日本外科感染症学会雑誌	2019年11月(岐阜) 17(2): 54-59, 2021
2018	日本心臓血管外科手術データベース機構	坂東 興	Impact of Body Mass Index on Morbidity and Mortality after Cardiac Surgery in Geriatric Patients Part3: Thoracic aortic surgery	J Thorac Cardiovasc Surg	2020 Aug; 160(2): 409-420. doi: 10.1016/j.jtcvs.2019.07.048. Epub 2019 Sep 28.
2018	日本心臓血管外科手術データベース機構	井出 建二郎	SPシャント手術が、機能的単心室患者の生命予後に与える危険因子の同定	34th EACTS Annual Meeting	2020年10月
				European Journal of Cardiothoracic Surgery	2021 Jul 30; 60(2): 377-383
2018	日本心臓血管外科手術データベース機構	舘田 寛	マルファン症候群の心臓血管外科手術に関する調査	第51回心臓血管外科学会	2021年2月(京都)
2018	日本心臓血管外科手術データベース機構	松浦 馨	人工透析患者に対する大動脈弁置換術の手術成績と長期予後に関する多施設研究	The Annals of Thoracic Surgery	Jan.2023
2019	日本心臓血管外科手術データベース機構	太田教授	総動脈管症治療戦略におけるstaged repairの有用性	American Association for Thoracic Surgery (AATS) 100th Annual Meeting	NY, USA 2020
				34th EACTS Annual Meeting	2020年10月
2019	日本心臓血管外科手術データベース機構	宮田裕章	時空間因子の複合的な効果は急性大動脈症候群の手術例の予後に及ぼす影響	Journal of Thoracic and Cardiovascular Surgery	DOI: https://doi.org/10.1016/j.jtcvs.2020.03.043
2019	日本心臓血管外科手術データベース機構	志水 秀行	東日本大震災前後における先天性心疾患手術数の動向についての調査	Journal of the American Heart Association	Journal of the American Heart Association 10.1161/JAHA.119.014787
2019	日本心臓血管外科手術データベース機構	大北 裕	日本における急性A型大動脈解離の治療	The Journal of Thoracic and Cardiovascular Surgery	The Journal of Thoracic and Cardiovascular Surgery. 2020 Nov 11
2019	日本心臓血管外科手術データベース機構	平田 康隆	全国および東京都における重症先天性心疾患の給児診断率と予後に関する網羅的調査 (JACS調査分)	15th International Society of Ultrasound in Obstetrics and Gynecology	2019年
				Journal of Cardiology	https://doi.org/10.1016/j.jicc.2021.08.013 (Accepted 4 August 2021)
2019	日本心臓血管外科手術データベース機構	北村 惣一郎	先天性心疾患に対する冠動脈移植手術(coronary transfer)に伴う冠血行不全の頻度・原因・対策など生存率向上に資する調査研究と介入的治療	European Journal of Cardiothoracic Surgery	2021年12月
2019	日本心臓血管外科手術データベース機構	杉本 愛	完全型心内臓床欠損症及びファロー四徴症合併症例に対する本邦の治療成績と、周術期危険因子の検討	Gen Thorac Cardiovasc Surg	2022 Mar 25
2020	日本心臓血管外科手術データベース機構	坂東 興	冠動脈病変を有する大動脈弁狭窄症に対する大動脈弁置換術及び大動脈弁置換術+冠動脈バイパスの早期成績とリスク因子に関する検討	AATS	2021年4月
2020	日本心臓血管外科手術データベース機構	舘田 寛	First Database Comparison Between the United States and Japan: Coronary Artery Bypass Grafting	Ann Thorac Surg	2020 Apr;109(4):1159-1164.
2021	日本心臓血管外科手術データベース機構	月原弘之	Audit-Based Quality Validation of the Japan Cardiovascular Surgery Database	Circulation Journal	2021 Oct 25;85(11):2014-2018.

申請年度	申請団体	研究代表者	研究内容	投稿先・発表先	掲載媒体詳細・発表日
—	日本心臓血管外科手術データベース機構	—	Risk model of thoracic aortic surgery in 4707 cases from a nationwide single-race population through a web-based data entry system the first report of 30-day and 30-day operative outcome risk models for thoracic aortic surgery.	Circulation	Circulation. 2008 Sep 30;118(14 Suppl):S153-9. doi: 10.1161/CIRCULATIONAHA.107.756684.
—	日本心臓血管外科手術データベース機構	—	First report on 30-day and operative mortality in risk model of isolated coronary artery bypass grafting in Japan.	Ann Thorac Surg	Ann Thorac Surg. 2008 Dec 36(6):1866-72. doi: 10.1016/j.athoracsur.2008.08.001.
—	日本心臓血管外科手術データベース機構	—	Risk model of valve surgery in Japan using the Japan Adult Cardiovascular Surgery Database.	J Heart Valve Dis	J Heart Valve Dis. 2010 Nov;19(6):684-91.
—	日本心臓血管外科手術データベース機構	—	Risk models including high-risk cardiovascular procedures: clinical predictors of mortality and morbidity.	Eur J Cardiothorac Surg	Eur J Cardiothorac Surg. 2011 May;39(5):667-74. doi: 10.1016/j.ejcts.2010.08.050. Epub 2010 Nov 2.
—	日本心臓血管外科手術データベース機構	—	Effect of benchmarking projects on outcomes of coronary artery bypass graft surgery: challenges and prospects regarding the quality improvement initiative.	J Thorac Cardiovasc Surg	J Thorac Cardiovasc Surg. 2012 Jun;143(6):1384-9. doi: 10.1016/j.jtcvs.2011.07.010.
—	日本心臓血管外科手術データベース機構	—	Operative mortality and complication risk model for all major cardiovascular operations in Japan.	Ann Thorac Surg	2015 Jun;96(1):130-9. doi: 10.1016/j.athoracsur.2014.07.038. Epub 2014 Nov 6.
—	日本心臓血管外科手術データベース機構	—	Quality improvement in cardiovascular surgery: results of a surgical quality improvement programme using a nationwide clinical database and database-driven site visits in Japan.	BMJ Qual Saf.	2019
—	日本心臓血管外科手術データベース機構	—	Development of Bayesian Mortality Categories for Congenital Cardiac Surgery in Japan	The Annals of Thoracic Surgery.	2020 Sep 16
—	日本心臓血管外科手術データベース機構	—	本邦における心臓血管外科手術の現状: 2015年、2016年の日本心臓血管外科手術データベースの検討	日本心臓血管外科学会雑誌	Vol. 48, No. 1, January 2019 P1-24
—	日本心臓血管外科手術データベース機構	—	Current status of cardiovascular surgery in Japan, 2015 and 2016: a report based on the Japan Cardiovascular Surgery Database. 1-congenital heart surgery.	Gen Thorac Cardiovasc Surg.	2019 Jul 20. doi: 10.1007/s11748-019-01160-0.
—	日本心臓血管外科手術データベース機構	—	Current Status of cardiovascular surgery in Japan, 2015 and 2016: a report based on the Japan Cardiovascular Surgery Database. 2-Isolated coronary artery bypass grafting surgery.	Gen Thorac Cardiovasc Surg.	2019 Jun 28. doi: 10.1007/s11748-019-01162-y.
—	日本心臓血管外科手術データベース機構	—	Correction to: Current status of cardiovascular surgery in Japan, 2015 and 2016, a report based on the Japan Cardiovascular Surgery Database. 3-Valvular heart surgery.	Gen Thorac Cardiovasc Surg.	2019 Aug 5. doi: 10.1007/s11748-019-01178-4.
—	日本心臓血管外科手術データベース機構	—	Current status of cardiovascular surgery in Japan, 2015 and 2016: analysis of data from Japan Cardiovascular Surgery Database. 4-Thoracic aortic surgery.	Gen Thorac Cardiovasc Surg.	2019 Jul 16. doi: 10.1007/s11748-019-01163-x.
—	日本心臓血管外科手術データベース機構	—	本邦における2017、2019年の心臓血管外科手術の現状: 日本心臓血管外科手術データベース(JOVS)からの報告 1.先天性心疾患手術	日本心臓血管外科学会雑誌	日本心臓血管外科学会雑誌 2020年49巻4号 p. 151-154
—	日本心臓血管外科手術データベース機構	—	本邦における2017、2019年の心臓血管外科手術の現状: 日本心臓血管外科手術データベース(JOVS)からの報告 2.単独冠動脈バイパス手術	日本心臓血管外科学会雑誌	日本心臓血管外科学会雑誌 2020年49巻4号 p. 155-159
—	日本心臓血管外科手術データベース機構	—	本邦における2017、2019年の心臓血管外科手術の現状: 日本心臓血管外科手術データベース(JOVS)からの報告 3.心臓弁膜症手術	日本心臓血管外科学会雑誌	日本心臓血管外科学会雑誌 2020年49巻4号 p. 160-168
—	日本心臓血管外科手術データベース機構	—	本邦における2017、2019年の心臓血管外科手術の現状: 日本心臓血管外科手術データベース(JOVS)からの報告 4.胸動脈手術	日本心臓血管外科学会雑誌	日本心臓血管外科学会雑誌 2020年49巻4号 p. 169-179
—	日本心臓血管外科手術データベース機構	—	OAG in NIC/JAOVS	Nihon Rinsho	2016 Jun 20; 74 Suppl 1: 446-51, Japanese.
—	日本心臓血管外科手術データベース機構	—	Long-term results of bilateral pulmonary artery banding versus primary Norwood procedure	Pediatr Cardiol	2020 Feb;109(2):547-554. doi: 10.1016/j.athoracsur.2019.05.076. Epub 2019 Jul 20.
—	日本心臓血管外科手術データベース機構	—	Procedure- and Hospital-Level Variation of Deep Sternal Wound Infection From All-Japan Registry.	Ann Thorac Surg.	2021;Vol.29 (4)
—	日本心臓血管外科手術データベース機構	—	Status of cardiovascular surgery in Japan: a report based on the Japan Cardiovascular Surgery Database 2017-2018. 1. Congenital heart surgery	Asian Cardiovascular and Thoracic Annals.	2021;Vol.29 (4)
—	日本心臓血管外科手術データベース機構	—	Status of cardiovascular surgery in Japan between 2017 and 2018: A report based on the Japan cardiovascular surgery database 2. Isolated coronary artery bypass surgery	Asian Cardiovascular and Thoracic Annals.	2021;Vol.29 (4)
—	日本心臓血管外科手術データベース機構	—	Status of cardiovascular surgery in Japan between 2017 and 2018: a report based on the Japan Cardiovascular Surgery Database. 3. Valvular heart surgery	Asian Cardiovascular and Thoracic Annals.	2021;Vol.29 (4)
—	日本心臓血管外科手術データベース機構	—	Status of cardiovascular surgery in Japan between 2017 and 2018: a report based on the Japan Cardiovascular Surgery Database. 4. Thoracic aortic surgery	Asian Cardiovascular and Thoracic Annals.	2021;Vol.29 (4)
—	日本心臓血管外科手術データベース機構	—	Audit-Based Quality Validation of the Japan Cardiovascular Surgery Database	Circulation in Japan	2021 Volume 85 Issue 11 Pages 2014-2019 doi: 10.1253/circj.CJ-21-0444

学会名: 日本心臓血管外科手術データベース機構、日本心臓血管インターベンション治療学会 共同研究

2016	日本心臓血管外科手術データベース機構 日本心臓血管インターベンション治療学会	—	施設内OAGおよびPCI症例数対比の検討	Journal of Clinical Medicine	—
------	---	---	----------------------	------------------------------	---

マニュアルの詳細は各学会へお問い合わせください

学会名：日本小児外科学会

申請年度	申請団体	研究代表者	研究内容	投稿先・発表先	掲載媒体詳細・発表日
2016 (掲載年)	日本小児外科学会	日本小児外科学会 NCD 連絡委員会	日本小児外科学会データベース委員会：National Clinical Database (小児外科領域) Annual Report 2011-2012.	日本小児外科学会雑誌	52: 1350-1359, 2016
2018 (掲載年)	日本小児外科学会	日本小児外科学会 NCD 連絡委員会	日本小児外科学会データベース委員会：National Clinical Database (小児外科領域) Annual Report 2013-2014	日本小児外科学会雑誌	54: 314-335, 2018
2019 (掲載年)	日本小児外科学会	日本小児外科学会 NCD 連絡委員会	日本小児外科学会データベース委員会：National Clinical Database (小児外科領域) Annual Report 2015-2016	日本小児外科学会雑誌	55: 298-303, 2019
2020 (掲載年)	日本小児外科学会	日本小児外科学会 NCD 連絡委員会	日本小児外科学会データベース委員会：National Clinical Database (小児外科領域) Annual Report 2017-2018	日本小児外科学会雑誌	57: 765-772, 2021
2020 (掲載年)	日本小児外科学会	日本小児外科学会 学術・先進医療検討委員会	わが国の新生児外科の現状—2018年新生児外科全国集計—	日本小児外科学会雑誌	56: 1167-1182, 2020
2021 (掲載年)	日本小児外科学会	日本小児外科学会 NCD 連絡委員会	日本小児外科学会データベース委員会：National Clinical Database (小児外科領域) Annual Report 2019	日本小児外科学会雑誌	57: 765-772, 2021
2016	日本小児外科学会	藤代 準	Abdominal Drainage at Appendectomy for Complicated Appendicitis in Children: A Propensity-matched Comparative Study	Annals of Surgery	274: e599-e604, 2021.
2017	日本小児外科学会	照井 慶太	Development and validation of risk models for mortality and morbidity in 12 major pediatric surgical procedures: A study from the National Clinical Database-Pediatric of Japan	Journal of Pediatric Surgery	55: 2064-2070, 2020
2017	日本小児外科学会	藤代 準	Laparoscopic Versus Open Appendectomy for Acute Appendicitis in Children: a Nationwide Retrospective Study on Postoperative Outcomes	Journal of Gastrointestinal Surgery	25: 1036-1044, 2021

マニュアルの詳細は各学会へお問い合わせください

学会名: 日本呼吸器外科学会

申請年度	申請団体	研究代表者	研究内容	投稿先・発表先	掲載媒体詳細・発表日
-	日本呼吸器外科学会	佐藤 幸夫	The impact of COVID-19 on thoracic surgical procedures in Japan: Analysis of data from the National Clinical Database	Lung Cancer	2022 Oct DOI: 10.1016/j.lungcan.2022.08.011
2020	日本呼吸器外科学会	一瀬 淳二	Real-world perioperative outcomes of segmentectomy versus lobectomy for early-stage lung cancer: a propensity score-matched analysis	European Journal of Cardio-Thoracic Surgery	2022 Nov 2 DOI: 10.1093/ejcts/ezac529
2019	日本呼吸器外科学会	新谷 康	A risk model for prolonged air leak after lobectomy using the National Clinical Database in Japan	Surgery Today.	2021 May 17 DOI: 10.1007/s00595-021-02300-x
2019	日本呼吸器外科学会	橋本 昌樹	Japanese Current Status of Curative-Intent Surgery for Malignant Pleural Mesothelioma	The Annals of Thoracic Surgery	2021 Apr 27 DOI: 10.1016/j.athoracsur.2021.04.042
2017	日本呼吸器外科学会	田中 雄悟	Preoperative cumulative smoking dose on lung cancer surgery in a Japanese nationwide database	The Annals of Thoracic Surgery	2021 Feb 15 DOI: 10.1016/j.athoracsur.2021.01.055
2017	日本呼吸器外科学会	宮崎 拓郎	Certified thoracic surgeons in Japan: a survey of risk-adjusted mortality in lung resection by a national database	Surgery Today.	2021 Jan 30 DOI: 10.1007/s00595-021-02227-3
2016	日本呼吸器外科学会	池田 徳彦	Current status of surgery for clinical stage IA lung cancer in Japan: analysis of the national clinical database	Surgery Today.	Published: 05 July 2020 DOI: 10.1007/s00595-020-02063-x
-	日本呼吸器外科学会	遠藤 俊輔	Risk assessments for broncho-pleural fistula and respiratory failure after lung cancer surgery by National Clinical Database Japan.	General Thoracic and Cardiovascular Surgery	2018 Oct 16. doi: 10.1007/s11748-018-1022-y
-	日本呼吸器外科学会	遠藤 俊輔	Model of lung cancer surgery risk derived from a Japanese nationwide web-based database of 78 594 patients during 2014-2015.	European Journal of Cardio-Thoracic Surgery	2017 Dec 1; 52(6): 1182-1189. doi: 10.1093/ejcts/ezx190.
-	日本呼吸器外科学会	遠藤 俊輔	Development of an annually updated Japanese national clinical database for chest surgery in 2014.	General Thoracic and Cardiovascular Surgery	2016 Oct; 64(10): 569-76. doi: 10.1007/s11748-016-0697-1.

アニユアルの詳細は各学会へお問い合わせください

学会名: 日本心血管インターベンション治療学会

申請年度	申請団体	研究代表者	研究内容	投稿先・発表先	掲載媒体詳細・発表日
2016	日本心血管インターベンション治療学会	山地香平	Relation of ST-Segment Elevation on Myocardial Infarction to Daily Ambient Temperature and Air Pollutant Levels in a Japanese Nationwide Percutaneous Coronary Intervention Registry	The American Journal of Cardiology	2017 Mar 15; 119(6): 872-880.
2016	日本心血管インターベンション治療学会	沼澤洋平	Comparison of Outcomes of Women Versus Men with Non-ST-elevation Acute Coronary Syndromes Undergoing Percutaneous Coronary Intervention (from the Japanese Nationwide Registry)	The American Journal of Cardiology	2017 Mar 15; 119(6): 826-831.
2016	日本心血管インターベンション治療学会	坂倉雄一	Incidence and Determinants of Complications in Rotational Atherectomy: Insights From the National Clinical Data (J-PCI Registry)	Circulation: Cardiovascular Interventions	2016 Nov; 9(11): pii: e004278.
2017	日本心血管インターベンション治療学会	久保俊介	In-Hospital Outcomes After Percutaneous Coronary Intervention for Acute Coronary Syndrome With Cardiogenic Shock (from a Japanese Nationwide Registry [J-PCI Registry])	Am J Cardiol	2019 May 15; 123(10): 1595-160
2017	日本心血管インターベンション治療学会	沼澤洋平	Comparison of Outcomes After Percutaneous Coronary Intervention in Elderly Patients: Including 10 628 Nonagenarians: Insights From a Japanese Nationwide Registry (J-PCI Registry)	J Am Heart Assoc	2019 Mar 5; 8(5): e011183
2017	日本心血管インターベンション治療学会	秋田敬太郎	Impact of reduced-dose prasugrel vs. standard-dose clopidogrel on in-hospital outcomes of percutaneous coronary intervention in 62 737 patients with acute coronary syndromes: a nationwide registry study in Japan	Eur Heart J Cardiovasc Pharmacother	2020 Jul 1; 6(4): 231-238
2017	日本心血管インターベンション治療学会	大野洋平	Incidence and In-Hospital Outcomes of Patients Presenting With Stent Thrombosis (from the Japanese Nationwide Percutaneous Coronary Intervention Registry)	Am J Cardiol	2020 Mar 1; 125(5): 720-726
2018	日本心血管インターベンション治療学会	沼澤洋平	Association of the Hemoglobin to Serum Creatinine Ratio with In-Hospital Adverse Outcomes after Percutaneous Coronary Intervention among Non-Dialysis Patients: Insights from a Japanese Nationwide Registry (J-PCI Registry)	J Clin Med	2020 Nov 10; 9(11): 3612
2018	日本心血管インターベンション治療学会	石原隆行	Impact of peripheral artery disease on short-term outcomes after percutaneous coronary intervention: A report from Japanese nationwide registry	PLoS One	2020 Oct 6; 15(10): e0240095
2018	日本心血管インターベンション治療学会	相川忠夫	Procedural Volume and Outcomes After Percutaneous Coronary Intervention for Unprotected Left Main Coronary Artery Disease - Report From the National Clinical Data (J-PCI Registry)	J Am Heart Assoc	2020 May 5; 9(5): e015404
2020	日本心血管インターベンション治療学会	澤野亮明	Contemporary use and trends in percutaneous coronary intervention in Japan: an outline of the J-PCI registry	Cardiovasc Interv Ther	2020 Jul; 35(3): 218-226
2019	日本心血管インターベンション治療学会	藤井敬晴	Post-interventional adverse event risk by vascular access site among patients with acute coronary syndrome in Japan: observational analysis with a national registry J-PCI database	Cardiovasc Interv Ther	2019 Oct; 34(4): 297-304
2019	日本心血管インターベンション治療学会	高原亮佳	Diabetes mellitus and other cardiovascular risk factors in lower-extremity peripheral artery disease versus coronary artery disease: an analysis of 1,121,359 cases from the nationwide databases	Cardiovasc Diabetol	2019 Nov 15; 18(1): 155
2020	日本心血管インターベンション治療学会	香坂俊	Outcome of Percutaneous Coronary Intervention in Relation to the Institutional Volume of Coronary Artery Bypass Surgery	J Clin Med	2020 Apr 27; 9(5): 1267
2019	日本心血管インターベンション治療学会	猪原拓	Risk stratification model for in-hospital death in patients undergoing percutaneous coronary intervention: a nationwide retrospective cohort study in Japan	BMJ Open	2019 May 22; 9(5): e026683
2020	日本心血管インターベンション治療学会	猪原拓	Comparative Trends in Percutaneous Coronary Intervention in Japan and the United States, 2013 to 2017	J Am Coll Cardiol	2020 Sep 15; 76(11): 1328-1340
2020	日本心血管インターベンション治療学会	高原亮佳	Presentation Pattern of Lower Extremity Endovascular Intervention versus Percutaneous Coronary Intervention	J Atheroscler Thromb	2020 Aug 1; 27(8): 761-768
2020	日本心血管インターベンション治療学会	山地香平	Population Density Analysis of Percutaneous Coronary Intervention for ST-Segment-Elevation Myocardial Infarction in Japan	J Am Heart Assoc	2020 Aug 4; 9(15): e016952

申請年度	申請団体	研究代表者	研究内容	投稿先・発表先	掲載媒体詳細・発表日
2017	日本心血管インターベンション治療学会	猪原拓	Impact of Institutional and Operator Volume on Short-Term Outcomes of Percutaneous Coronary Intervention: A Report From the Japanese Nationwide Registry	JACC Cardiovasc Interv	2017 May 8;10(9):918-927
2019	日本心血管インターベンション治療学会	沼澤洋平	An overview of percutaneous coronary intervention in dialysis patients: Insights from a Japanese nationwide registry	Catheter Cardiovasc Interv	2019 Jul 1;94(1):E1-E8
2020	日本心血管インターベンション治療学会	辻村卓也	In-Hospital Outcomes after Endovascular Therapy for Acute Limb Ischemia: A Report from a Japanese Nationwide Registry [J-EVT Registry].	J Atheroscler Thromb	2020 Nov 20.
2020	日本心血管インターベンション治療学会	飯田修	Impact of Institutional Volume on Critical In-Hospital Complications Adjusted for Patient- and Limb-Related Characteristics: An Analysis of a Nationwide Japanese Registry of Endovascular Interventions for PAD.	J Endovasc Ther	2020 Oct;27(5):739-748
2020	日本心血管インターベンション治療学会	大塚祐輔	In-hospital outcomes and usage of embolic protection devices in percutaneous coronary intervention for coronary artery bypass grafts: Insights from a Japanese nationwide registry.	Catheter Cardiovasc Interv	2021 Apr 16.
2021	日本心血管インターベンション治療学会	澤山裕一	Variation in in-hospital mortality and its association with percutaneous coronary intervention-related bleeding complications: A report from nationwide registry in Japan.	PLoS One	2021 Dec 13;16(12):e0261371.
2021	日本心血管インターベンション治療学会	伊藤 剛	Effect of Procedural Volume on In-Hospital Outcomes After Percutaneous Coronary Intervention in Patients With Chronic Kidney Disease (from the Japanese National Clinical Data [J-PCI Registry]).	Am J Cardiol	2022 Feb 15;165:12-18.
2021	日本心血管インターベンション治療学会	皆月 隼	Characteristics and in-hospital outcomes of patients undergoing balloon pulmonary angioplasty for chronic thromboembolic pulmonary hypertension: a time-trend analysis from the Japanese nationwide registry.	Open Heart	2021 Sep;8(2):e001721.
2021	日本心血管インターベンション治療学会	村里嘉信	Percutaneous coronary intervention in inside branch coronary arteries: Insights from the Japanese nationwide registry.	Int J Cardiol Heart Vasc	2021 Aug 18;36:100856.
2021	日本心血管インターベンション治療学会	澤野充明	One-Year Outcome After Percutaneous Coronary Intervention for Acute Coronary Syndrome - An Analysis of 20,042 Patients From a Japanese Nationwide Registry	Cor J	2021 Sep 24;85(10):1756-1767.
2022	日本心血管インターベンション治療学会	安藤博彦	Japanese Nationwide PCI (J-PCI) Registry Annual Report 2019: patient demographics and in-hospital outcomes	Cardiovasc Interv Ther	2022 Jan 12;1-5.
2022	日本心血管インターベンション治療学会	菅羽勘一	One-year Outcome after Percutaneous Coronary Intervention in Nonagenarians: Insights from the J-PCI OUTCOME Registry	Am Heart J	2022 Jan 8;S0002-8703(22)00004-7

アニュアルの詳細は下記の学会中よりご確認ください
URL: http://www.cvit.jp/registry/data_manager/

学会名: 日本乳癌学会

採択年	申請団体	研究代表者	研究内容	投稿先・発表先	掲載媒体詳細・発表日
2013	日本乳癌学会	新倉 直樹	Changes in tumor expression of HER2 and hormone receptors status after neoadjuvant chemotherapy in 21,755 patients from the Japanese breast cancer registry	Ann Oncol	2016 Mar; 27(3): 480-7. doi: 10.1093/annonc/mdv611
2013	日本乳癌学会	河合 賢朗	Body mass index and survival after diagnosis of invasive breast cancer: a study based on the Japanese National Clinical Database-Breast Cancer Registry	Cancer Med	2016 Jun; 5(6): 1328-40. doi: 10.1002/cam4.678.
2013	日本乳癌学会	片岡 明美	Young adult breast cancer patients have a poor prognosis independent of prognostic clinicopathological factors: a study from the Japanese Breast Cancer Registry	Breast Cancer Res Treat	2016 Nov; 160(1): 163-172. doi: 10.1007/s10549-016-3984-8
2014	日本乳癌学会	岩本 高行	Distinct breast cancer characteristics between screen- and self-detected breast cancers recorded in the Japanese Breast Cancer Registry	Breast Cancer Res Treat	2016 Apr; 156(3): 485-494. doi: 10.1007/s10549-016-3770-7
2015	日本乳癌学会	宮下 穰	Role of Postmastectomy Radiotherapy After Neoadjuvant Chemotherapy in Breast Cancer Patients: A Study from the Japanese Breast Cancer Registry	Ann Surg Oncol	2019 Aug; 26(8): 2475-2485. doi: 10.1245/s10434-019-07453-1
2015	日本乳癌学会	久保 真	A population-based recurrence risk management study of patients with pT1 node-negative HER2+ breast cancer: a National Clinical Database study	Breast Cancer Res Treat	2019 Dec; 178(3): 647-656. doi: 10.1007/s10549-019-05413-7
2015	日本乳癌学会	北条 隆	Taxane-based combinations as adjuvant chemotherapy for node-positive ER-positive breast cancer based on 2004-2009 data from the Breast Cancer Registry of the Japanese Breast Cancer Society	Breast Cancer	2020 Jan; 27(1): 85-91. doi: 10.1007/s12282-019-00997-w
2017	日本乳癌学会	相良 安昭	Trends in adjuvant therapy after breast-conserving surgery for ductal carcinoma in situ of breast: a retrospective cohort study using the National Breast Cancer Registry of Japan	Breast Cancer	2022 Jan; 29(1): 1-8. doi: 10.1007/s12282-021-01307-z
2017	日本乳癌学会	寺田 満雄	Surgical treatment trends and identification of primary breast tumors after surgery in occult breast cancer: a study based on the Japanese National Clinical Database-Breast Cancer Registry	Breast Cancer	2022 Jul; 29(4): 698-708. doi: 10.1007/s12282-022-01348-y
2017	日本乳癌学会	岡村 卓穂	Breast cancer survival among Japanese individuals and US residents of Japanese and other origins: a comparative registry-based study	Breast Cancer Res Treat	2020 Nov; 184(2): 585-596. doi: 10.1007/s10549-020-05869-y
2018	日本乳癌学会	下村 昭彦	Clinicopathological features of male patients with breast cancer based on a nationwide registry database in Japan	Breast Cancer	2022 Nov; 29(6): 985-992. doi: 10.1007/s12282-022-01378-6
2018	日本乳癌学会	相原 智彦	Prognosis and effectiveness of chemotherapy for medullary breast carcinoma	Breast Cancer Res Treat	2022 Dec; 196(3): 635-645. doi: 10.1007/s10549-022-06749-3

アニユアルの詳細は各学会へお問い合わせください

26. 総務委員会

委員長 猪 股 雅 史

1. 定期学術集会の運営委託業者の選定について

令和6(2024)年4月開催の第124回と、令和7(2025)年4月開催の第125回の定期学術集会の運営委託業者の選考については、過去の委託実績を持つ3社(その内1社は辞退)を対象とし、企画書および見積書を取り寄せた上で、見積額の妥当性や組織体制の整備なども参考に、プレゼンテーションを経て、日本コンベンションサービス社に決定した。

2. 会費収納方法の見直しについて

本年度から導入した収納代行サービス(従来の郵便局支払いに加え、コンビニ・スマホ決済も可能)が順調に稼働していることなどに伴い、さらに以下のとおりに対応することとした。

- ・会費請求の一斉再送は取り止めて、再送の依頼があった場合のみ適宜対応する。
- ・収納代行業者から発送される請求書について、会員側が経理処理し易いように表記や体裁などを修正すると共に、学会印も捺して印刷する。
- ・事務局でも請求書の再発行が行えるように、収納代行業者とデータ連結を行う。
- ・従来の収納方法(MTサービス)は契約終了とする。

3. 準会員制度について

制度の骨子は既に決定済みであったものの、詳細が継続審議事項となっていたので、入会手数料は正会員と同じ2,000円として(年会費は半額の5,000円;不課税)、定款委員会に規則化を申し送った。

その権利については、代議員選挙の選挙権/被選挙権がないこと以外(演題の応募、雑誌の購読、eラーニングの受講など)は、正会員と同等することが望ましい方針とした上で、詳細は各該当委員会で検討してもらうこととした。

4. 会費未納による会員資格の喪失について

会費未納による会員資格の喪失により、外科専門医などの資格も喪失した元会員の一部から資格回復の嘆願が届くことを鑑み、外科専門医などの各種資格を失効する各種の事由を整理した上で検討を行った結果、もっとも蓋然性の高い事由となる「会費未納による会員資格の喪失」による資格失効を防ぐため、現在は1年間の会員資格喪失後の復会申立期間を3年に延ばすこととし、定款委員会に規則変更を申し送った。

この変更により、会費未納による会員資格の喪失までの期間が計6年となり、通達の回数が増え、さらに5年という各種資格の認定期間を包含することとなる。

27. 将来計画委員会

委員長 池 田 徳 彦

本年度は特段の諮問事項はなく、開催していない。

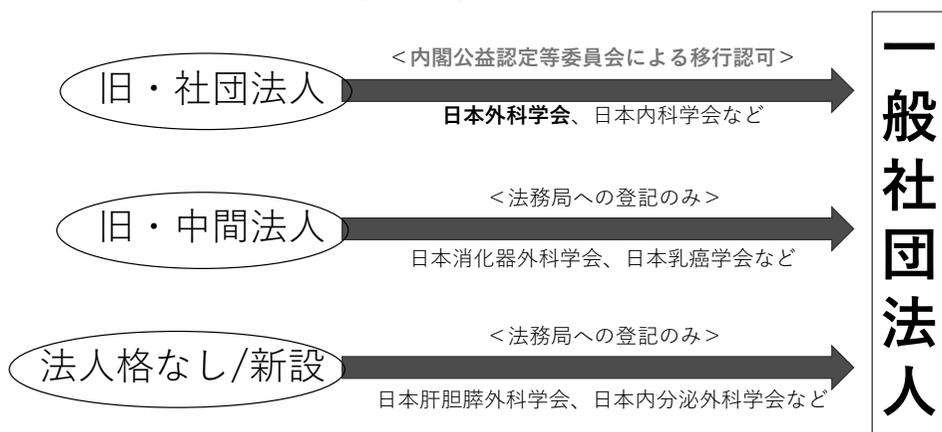
28. 選挙管理・選挙制度検討委員会

委員長 武 富 紹 信

現在の本学会の女性代議員数は、定数 350 名のうち 6 名（1.7%）にとどまっており、この人数を増やすという課題に継続的に取り組んでいるが、あくまでも公平な選挙制度の下で代議員を選任しなければならない旨の内閣府公益認定等委員会の本学会に対する指導勧告のハードルが高く、抜本的な対策を講じるためにはまだ時間を要する。

そこで、まずは次回（令和 5 年度）の選挙から代議員の定数そのものを 400 名とし（→定款変更）、50 名の増員分については女性に充ててほしい旨を、理事会からの明確なメッセージとして各選挙区に発信し、女性代議員数の増加を図ることとした。

学会の一般社団法人までの成り立ち



本法人の運営にあたり「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律」（2008年12月施行）を遵守しなければならない

日本外科学会女性会員数および代議員数

2021/12/1時点で在会かつ会費支払い対象者

年齢(歳)	男性(人)	男性(%)	女性(人)	女性(%)
～30	1973	73.32	718	26.68
31～35	2951	79.43	764	20.57
36～40	3427	80.83	813	19.17
41～45	3365	82.78	700	17.22
46～50	3756	87.55	534	12.45
51～55	4256	93.89	277	6.11
56～60	4575	95.89	196	4.11
61～65	4303	97.80	97	2.20
66～70	2823	98.81	34	1.19
71～75	1770	99.38	11	0.62
76～80	858	99.31	6	0.69
81～85	36	100.00	0	0.00
86～	49	98.00	1	2.00

合計人数

男性会員：34,142名 (89.2%)

女性会員：4,151名 (10.8%)

※名譽・特別会員、永年会員など選挙権・被選挙権のない会員を除く

女性立候補者の推移

2015年度選挙	1人
2017年度選挙	2人
2019年度選挙	3人
2021年度選挙	6人

日本外科学会代議員 345人
(任期：R4.1.15～R6.1.15)

うち 女性代議員 6人 (1.7%)

各学会の女性代議員(評議員)の割合

学会名	現在の代議員 (評議員) 数	うち女性数	女性代議員(評議員) の割合(%)
日本乳癌学会	408	114	27.9
日本皮膚科学会	300	53	17.7
日本麻酔科学会	336	62	18.5
日本内分泌外科学会	212	28	13.2
日本小児科学会	581	88	15.1
日本小児外科学会	279	31	11.1
日本内科学会	682	72	10.6
日本産婦人科学会	367	39	10.6
日本眼科学会	110	11	10.0
日本耳鼻咽喉科学会	298	16	5.4
日本心臓血管外科学会	221	10	4.5
日本呼吸器外科学会	731	23	3.1
日本消化器外科学会	357	10	2.8
日本外科学会	345	6	1.7
日本整形外科学会	278	3	1.1

2023年1月現在

令和3年度選挙実績				総定数 (人) 350		
選挙区	有権者数 (人)	割合(%)	按分定数 (人)	令和3年度代議員選挙定数 (人)		
第1区	1,227	3.71	12.99	13		
第2区	780	2.36	8.26	8		
第3区	1,300	3.83	13.77	14		
第4区	2,321	7.02	24.58	25		
第5区	1,907	5.77	20.20	20		
第6区	2,336	7.07	24.74	25		
第7区	1,491	4.51	15.79	16		
第8区	1,161	3.51	12.30	12		
第9区	501	1.52	5.31	5		
第10区	682	2.06	7.22	7		
第11区	1,181	3.57	12.51	13		
第12区	977	2.96	10.35	10		
第13区	779	2.36	8.25	8		
第14区	1,697	5.13	17.97	18		
第15区	1,558	4.71	16.50	17		
第16区	1,522	4.61	16.12	16		
第17区	1,381	4.18	14.63	15		
第18区	972	2.94	10.29	10		
第19区	1,964	5.94	20.80	21		
第20区	968	2.93	10.25	10		
第21区	1,113	3.37	11.79	12		
第22区	1,080	3.27	11.44	11		
第23区	1,649	4.99	17.46	17		
第24区	1,113	3.37	11.79	12		
第25区	1,389	4.20	14.71	15		
	33,049	100	350	350		

総定数 (人) 400 (案)		
按分定数 (人)	選挙区定数 (人)	総定数350名の増との差 (人)
14.85	15	2
9.44	9	1
15.73	16	2
28.09	28	3
23.08	23	3
28.27	28	3
18.05	18	2
14.05	14	2
6.06	6	1
8.25	8	1
14.29	14	1
11.82	12	2
9.43	9	1
20.54	21	3
18.86	19	2
18.42	18	2
16.71	17	2
11.76	12	2
23.77	24	3
11.72	12	2
13.47	13	1
13.07	13	2
19.96	20	3
13.47	13	1
16.81	17	2
400.00	399	49

6/350=1.7%

49/400=12.3%

代議員数増に関わる提案

2023年1月23日
選挙管理・選挙制度検討委員会

1. 代議員数を現行の350名から50名増員し、400名とする。
2. 増員分50名については女性代議員枠として活用することを、理事会申し合わせ事項として各地区に提唱する（定款記載なし）。

以上